

さんぽ 研修だより No. 2

R7.12.1

サンクスシェア

田中さとる

【個別支援計画作成】

短い時間で全体像を早口で説明し、具体的な確認ができたかどうかはなはだ反省です。てな言い訳を並べた上で、このたよりにて少しでも補足にチャレンジします。さて、個別支援計画の作成は、そう簡潔にまとめられるものでもないと思っていますが、あえて大事にしていきたいポイントについて、私が考える優先順位で提案します。

① アセスメント

何をさしあいてもやはりこれだと考えます。目標を設定して達成の取り組みももちろん大切ですが、その前に十分アセスメントができているかの方が圧倒的に重要です。

それはなぜか？

本人のことがわからずして『目標を・・・』とはならないからです。何ができるのか？何ができるないのか？そのことに関する意欲・意識は？このことがよくわからないことには、取り組み自体の意味が薄まってしまうのではないかでしょう。

では、どのように、何を留意してアセスメントするとよいのでしょうか？

まずは、『アセスメント = 情報収集』だけではないことです。

情報収集もアセスメントの十分な内容の一部ではありますが、質問をして返答して得られる情報に加えてもっと重要なことは、『アセスメント = 感情に寄り添うこと』だと考えます。

これには、研修時にもみなさんと共有した『関係性づくり』を含んでいます。目標を設定して、その達成に向けて取り組む前段階として、関係性ができないことには、目標への意欲・態度・感情が伴っていないかと考えます。これは、私の経験上の感覚ですが、この関係性（=目標への意欲・態度・感情）が私たち支援者と同じ方向を向くことができさえすれば、目標への取り組みは、80%以上達成したも同然ではないかとまで思います。

このようなことからも、私たちがアセスメントで重要視すべきは、単に情報を収集することにとどまらず、本人や家族の思い・感情に寄り添うこと（つまり何を考え、何を思い、何を願っているか？などにしっかりと寄り添うこと）ではないかと思っています。このとき、発信がある人、ない人を問わずに、私たち人のコミュニケーションにおいて、メラビアンの法則によればそもそも言葉が占める割合は10%にも満たないわけで、その他のしぐさや声のトーン、表情などの非言語の部分もしっかりと受け取ることを大切にしたいと思います。

このアセスメントをていねいに実施していることは、きれいな目標設定ができた、形式上目標管理に取り組んでいるように見える支援よりもずっとずっと価値があるように思います。

私の好きな心理学者で、國分康孝さんという方が、こうおっしゃっています。

『変えようとするな、わかるうとせよ』

まさにアセスメントでの私たち支援者的心構えだと思っています。

そして、アセスメントを大切にすればするほど個別支援計画の具体性は、おのずとすすんでいくのではないかと思います。

② チームによる情報共有

アセスメントを重要視することと同じレベルで重要視することが、チームでの方向性をそろえることだと考えます。

仮に、アセスメントが十分ではなくても、個別支援計画の内容がまだ具体性が乏しくても、支援者チームで同じ方向を向いているかを大切にすることは優先順位が上だと考えます。

研修の中でもみなさんと共有しましたが、スタッフ間でこの方向性にゆらぎやぶればあると最も混乱するのはご本人やご家族です。特に、支援上大切にすることや支援における価値観が、個々ばらばらであることが最も支障が大きくなります。ですから、現時点で、もし、あなたが、正しい適切な計画が立案されていないことが気になったとしても、一旦スタッフ間でていねいに共有した方針を踏襲することを優先することが必要です。そして、共有した方針を修正するとなれば、適切な手続きを踏んでチームが納得して合意して変えることが必要だと考えます。しつこいようですが、個別支援計画はとても重要だけれど、個別支援計画書がかたち上きれいでできあがるよりも、支援チーム間が方針を共有して支援に向き合うことの方が優先順位が高いのではないかと考えます。

この支援チーム間で方向性を共有する方法には、特に正解などはないと思います。まあ、しいて言えば、コミュニケーションのタイミング、数を増やすことじゃないでしょうか。毎日、忙しい中にこの場を増やすことは大変だと思いますが、リーダーの立場にいらっしゃるみなさんの腕の見せどころではないかと思います。

また、この共有の一つレベルが上のバージョンとして、連携する関係機関との共有があるでしょう。なかなかのハードルではあると思いますが、ご家族を始め、相談員や他のサービス事業所などとの同じ方向性を共有する連携ができると、個別支援計画書の存在意義もぐんと高まると思います。

2つの優先すべき項目を上げました。たくさんの配慮すべきことが山ほどある中、一支援者の一意見です。この一提案を踏み台に、個別支援計画作成のためのみなさんなりの項目、優先順位、留意点などを試行錯誤しながら決めていかれることを陰ながら応援させていただきます。